

アジア経済圏の可能性

The Capability of Asian Economic Sphere

総括研究員：板東 慧

分担研究員：埋橋孝文 今野修平 盧 群

本プロジェクトは、高成長が注目される中で、Asean10体制の成立と中国の市場経済化の進展と、日本・NIEs諸国・オセアニアに加えて南アジアなど、発展段階も文化的位相も異なるアジアが、どのような経済協力や市場統合が可能かを課題とし、アジア金融危機からの回復過程の諸問題も視野にいて、地域経済圏の構築を模索している。以下、各研究員の担当領域の報告を紹介する（氏名50音順）。

[板東 慧－アジアにおける労働力形成・労働市場構造と国際社会政策]

アジアの経済発展は、日本を筆頭にしてNIEs、つづいて途上国と、いわゆる雁行形態をとり、多国籍企業化による輸入代替工業化から輸出産業の拡大と高成長を続けてきた。その間、都市工業化に対応して、人口の大都市集中とアジア型一極集中がすすんだが、特に途上国では農村の近代化と分解がスムーズにすすまず、膨大な潜在失業と所得格差が温存され、各国労働市場は極度な重層構造を形成している。そこには、全国的な不均等発展と国民教育制度および社会政策の遅れが支配しており、他方で、出稼ぎやポートピープルがインフォーマルに拡大し、労働市場の近代化が工業化の発展のために不可避となっている。また、不熟練労働力の過剰化の下で、熟練・高技能労働力は一貫して不足する傾向にある。この意味で、アジアにおける地域経済圏レベルでの労働力配置の長期的な展望にたった労働市場政策と、それに必要な国際社会政策が重視される。その論点を鮮明にするための実証研究をすすめている。

[埋橋孝文－アジアの社会保障]

アジアの社会保障制度は、それぞれの国の文化・歴史・経済の発展段階の違いを反映して多様である。かつての宗主国の影響を制度的に強く受けているシンガポール・マレーシア・香港。貧困が深刻で、所得保障にまして医療衛生面での対応が緊急の課題とされるインド・バングラデシュ・パキスタンなど南アジア諸国。経済成長につづいて制度的な整備に着手している韓国・台湾。失業の顕在化と1人っ子政策から制度の再編が進行中の中国など。このような多様性をもつアジアの社会保障のそれぞれの課題と方向を展望する。

[今野修平－経済発展の成熟度と地域経済・都市問題]

アジア諸都市の発展が、その背景にある国民経済・地域経済の成熟度によって異なることに注目する中から、新しい都市問題に加えて、アジア固有の条件をフィルターとして、

従来の西欧中心に構築された理論や政策では対応しきれない問題点を把握する。この基礎認識による研究事例として、従来と異なって、地方・地域の都市分析をすすめる。このため、今年是中国・江蘇省の地方都市を対象として、従来のNIEsにおけるアジア的事例の研究と対照・対比しうる研究をすすめる。

[盧 群－大中華經濟圏における華人による対中經濟活動の現状と展望]

NAFTA・EUおよびEMUなどの地域統合の中、アジア經濟圏の形成が課題とされる。この視点から見て、中国大陸・香港・台湾・シンガポールおよび東南アジア各国に分散する華人・華僑グループによって形成される大中華經濟圏は無視できない。特に、中国が改革・解放政策に転じて以来、これら地域の華人の資本・技術・經營のノーハウが集中豪雨のように中国に入り、その急速な經濟発展に貢献してきた。このような華人・華僑の対中經濟活動を通じて、中国は國際經濟の大サークルに参入し、その中で大中華經濟圏の中心的存在となっている。本研究では、大中華經濟圏と華人經濟の概念を明らかにした上で、主として圏内における華人による対中經濟活動（貿易・投資など）の実像を分析し、将来を展望する。